

背景・目的

サインゲン（つるなし丸さや）の基幹品種‘ピテナ’は、高温期における収量・品質の低下が課題です。昨年度の試験では莢長14cm以上の莢を調査しましたが、高温期に莢長が伸びずに障害が多発して低収となったため、本年度は莢長12cm以上の莢を調査し、高温期に適した品種を検討しました。

結果

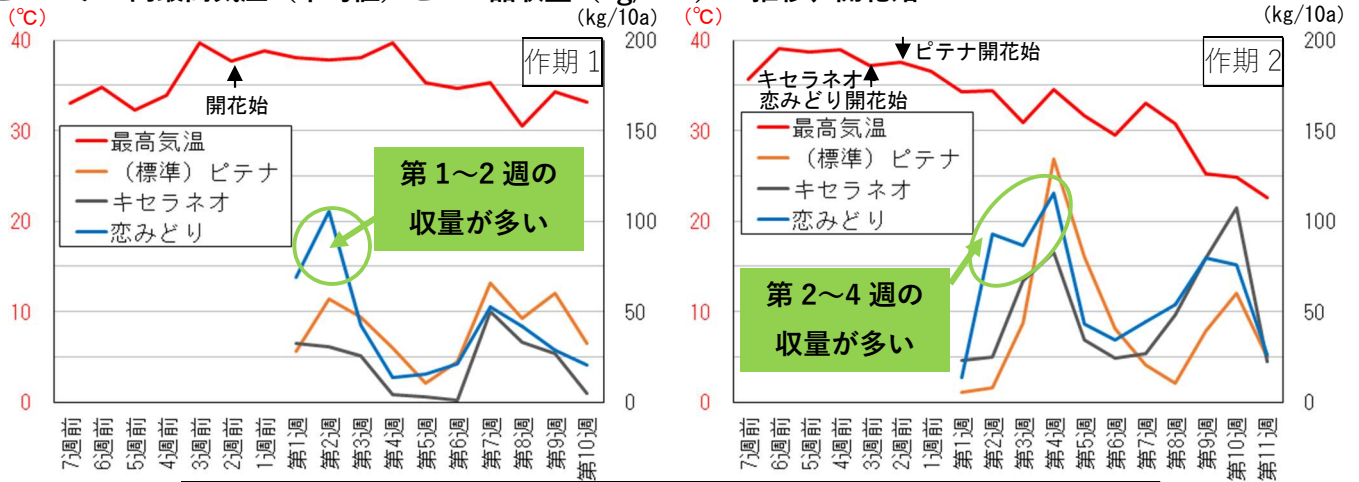
規格内品の収量（kg/10a）（莢長12cm以上の莢を収穫した場合）

	作期1（5/21 播種、7/9～9/15 収穫）						作期2（6/27 播種、8/15～10/29 収穫）					
	AS品	AM品	BS品	BM品	BL品	計	AS品	AM品	BS品	BM品	BL品	計
（標準）ピテナ	398	<b>115</b>	47	20	<b>5</b>	585	467	116	12	0	12	607
キセラネオ	211	76	22	6	0	315	540	129	75	<b>24</b>	4	774
<b>恋みどり</b>	<b>410</b>	113	<b>64</b>	<b>28</b>	2	<b>617</b>	<b>666</b>	<b>185</b>	<b>96</b>	20	<b>40</b>	<b>1,007</b>

※「A」は曲がり1cm未満、「B」は曲がり2cm未満の規格内品（外観等に異常がないもの）を示す。  
 ※「S」は莢長12cm以上14cm未満、「M」は莢長14cm以上16cm未満、「L」は莢長16cm以上18cm未満を示す。  
 （莢長12cm未満のものは調査対象外。また、莢長12cm以上18cm未満のものうち、不稔、過熟、病虫害等の規格外品も集計から除外している。）

作期1（10週間収穫）、作期2（11週間収穫）ともに‘恋みどり’が多収

週ごとのハウス内最高気温（平均値）とAS品収量（kg/10a）の推移、開花始



‘恋みどり’は他の品種より早く収量が増えるため、短い作型で有利

高温期栽培における供試品種の特徴（標準品種‘ピテナ’との比較）

品種名	莢の太さ	莢の色	莢の硬さ (折れやすさ)	作業性（優れる・同等・劣る）※		
				摘葉・摘果	収穫～調製	包装・梱包
キセラネオ	細い	淡い	同等	劣る	劣る	劣る
<b>恋みどり</b>	細い	濃い	硬い(折れる)	<b>優れる</b>	<b>優れる</b>	劣る

※ 草姿、作業時の印象、規格品率の高さ、1箱当たりに必要な莢数等から評価した。



結果の活かし方

高温期栽培では‘恋みどり’が有望ですが、莢の外観、硬さなど基幹品種‘ピテナ’と異なる特徴があります。莢が伸びにくい高温期においては、莢長12cm以上を目安に収穫することをお勧めします。